

横浜市立釜利谷南小学校
令和3年度 豊かな心の育成推進プラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○夢や希望や目標をもち、それに向かって努力を重ね、認め合い、語り合える学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図りながら、児童が友達とのコミュニケーションを大切にし、学習の楽しさを実感し、主体的・対話的に問題解決を進めていくような学習展開を図ります。 ・児童一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、楽しく学校生活を送りながら、夢や希望を語り合える学校にします。 ・学校中に挨拶や笑顔や歓声があふれ、豊かな心や、健やかな体を育成する学校にします。 ・家庭や地域の教育力を学校に取り込むことを通して、進んでまちとかかわり地域とともに生きる児童を育てます。

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
豊かな心	あいさつを進んで行い、同学年・異学年の友達と進んでかかわり、自分や友だちを大切にす る気持ちを育てま す。	<ol style="list-style-type: none"> ① あいさつ運動では「進んで」を重点的に意識して、挨拶運動を年間を通して行う。 ② 縦割り活動を年間を通して思いやりの気持ちを育む。 ③ 道徳科で学習したことが、日常につながるよう、指導計画、授業展開、掲示物などの工夫をする。 ④ パラリンピアンとの交流を通じた障害者理解と多様性を認め合う心のバリアフリーを構築していく。
担当	児童支援委員会	

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

本校の児童は、素直で決められたことはきちんとやる児童が多い。一方で、生活や学習の場面では、自分の思いや考えを発信することに苦手意識をもち、人とかかわり方の弱い面も見られる。そのため、学び合いの中で、表現し、交流する力を身に付けることが必要となってくる。

あいさつに関しては、昨年度は活動の制約がある中、「進んで」「気持ちを伝える」ということを児童会活動を中心に呼びかけてきた。まだまだ、自発的な挨拶には課題があるので、引き続き「進んで」を意識していく必要がある。

縦割り活動については、高学年児童が縦割り班全体のことを考え、工夫した活動を考えていた。その姿を見て、他の学年の児童も友達のことを思いやりながら活動を行っていた。異学年交流で学んだ相手を大切にす
る気持ちを日常につなげていくためにもこの活動に重点を置いていく。

道徳科の取組では、道徳的価値は頭では理解しているが、実際には行動に表せないことが多く、友達の立場に立って思いやりをもって考えることがなかなかできない児童もいる。さらに、自分事としてとらえられるように授業展開の工夫を行っていくことが大切である。

障害者理解については、まだまだ正しく理解されていない現状がある。まずは、互いの認め合いを進めていく中で、多様性について理解できるような取組を行っていき、「だれもが安心できる」環境づくりを全校で意識していけるようにする。

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

【人権教育】 「だれもが」「安心して」「豊かに」

- ・人権週間等「人権」に関する取組を公開し、子どもが様々な人とのかかわりを持ち、考えを広げ、普段の授業や学校・家庭生活に積極的にかかわってもらえるよう家庭への協力を呼びかけていきます。
- ・「自ら進んであいさつする」を年間の目標とし、児童とともに挨拶の大切さについて考えていく。
- ・友達を意識した言葉遣いを推進するため、「ふわふわ言葉」の奨励・定着を図ります。
- ・いじめが起こらないような学級風土づくりについて研修を行います。また、いじめの早期発見のため、生活アンケートやYPアセスメントを行い活用していきます。
- ・パラリンピアンとの交流を通し、障害者理解と多様性を認め合う心のバリアフリーを構築していきます。そして、「だれもが安心して豊かに」過ごせる環境づくりについて児童会活動等で考えていきます。

【自分づくり教育（キャリア教育）】

- ・6年生がリーダーとなって縦割り活動を行い、高学年のリーダーとしての役割意識、グループ内で互いを思いやる気持ち、協力しようとする気持ちを育てます。また、異学年との関わりの中で、一人ひとりの自己有用感を高めます。

【道徳教育】 特別の教科道徳を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育

- ・全学級の道徳科授業を家庭・地域（年1回以上）に公開することで、学校の取組を発信します。
- ・懇談会等で、道徳の授業について話し、家庭との共通理解を図り、様子を家庭へ知らせていきます。
- ・日々の児童指導や、特別の教科道徳での学習等を通して、日常の自他の言動を振り返るなど、子どもの心を耕していきます。

【『横浜の時間』】 地域材を活用した学習活動

- ・地域や社会、自然等と触れ合う豊かな体験活動を取り入れ、保護者や地域の方に一緒に参加していただく機会を増やし、豊かなかかわりの中で、思いやりの心やコミュニケーション能力を育てます。
（まち探検、公共施設の利用や施設を利用している人との交流、米作り、藁なえ、家庭科支援、図書室支援等での協力等）
- ・日本の文化や伝統（尺八、琴等）に触れる学習を設定します。
- ・ニレの木スタディフェスタ（学習発表会）を実施して、本校児童だけでなく、保護者・地域に公開することで、学校の取組を発信します。